

ServerView Suite V10.10.10

更新履歴

版数	変更内容	日付
初版	新規作成	2010年11月2日
2版	<p>格納ソフトウェアのバージョン修正</p> <p>■ServerView Agents の留意事項 (3)Hyper-V がインストールされている環境での留意 の追加</p> <p>■ServerView Installation Manager の留意事項 (11) ネットワーク共有パスに半角スペースを入力することができません (12) ServerView Operations Manager は、「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます (13) SVIM を使用して WindowsOS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください (14) RAS 支援サービスにおける留意事項 の追加 (6) マルチパス環境における留意事項 の一部修正</p> <p>■ServerView Deployment Manager の留意事項 (1) 制限機能(DNS 検索サフィックス)の修正</p> <p>■REMCS エージェントの留意事項</p> <p>■ServerBooks の留意事項の追加</p>	2011年1月11日

1. 対象 OS および対象機種

対象 OS	対象機種					
	TX150 S7	RX100 S6	TX300 S6	RX300 S6	RX200 S6	RX600 S5
Windows Server® 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows® Web Server 2008	○	○	○	○	○	×
Windows Server® 2008 Standard	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 Enterprise	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 Datacenter	×	×	○	○	○	○
Windows® Small Business Server 2008 Standard	○	○	○	○	×	×
Windows® Small Business Server 2008 Premium	○	○	○	○	×	×
Windows® Web Server 2008 R2	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Foundation	×	○	×	×	×	×
Windows Server® 2008 R2 Standard	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Enterprise	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 Datacenter	○	×	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition	×	×	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	○	○	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	○	○	○	○	○	○

対象 OS	対象機種	
	TX100 S2	TX200 S6
Windows Server® 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○
Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○
Windows® Web Server 2008	○	○
Windows Server® 2008 Standard	○	○
Windows Server® 2008 Enterprise	○*1	○
Windows Server® 2008 Datacenter	○	×
Windows® Small Business Server 2008 Standard	○	○
Windows® Small Business Server 2008 Premium	○	○
Windows® Web Server 2008 R2	○	○
Windows Server® 2008 R2 Foundation	○	×
Windows Server® 2008 R2 Standard	○	○
Windows Server® 2008 R2 Enterprise	○	○
Windows Server® 2008 R2 Datacenter	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition	×	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	○	○
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	○	○

*1: 64bit のみ

対象 OS	対象機種					
	BX620 S6	BX920 S1	BX920 S2	BX922 S2	BX924 S2	BX960 S1
Windows Server 2003 R2, Web Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server 2003 R2, Standard Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition(SP2)	○	○	○	○	○	×
Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition(SP2)	○	○	○	○	○	○
Windows Web Server 2008	○	×	○	○	○	×
Windows Server 2008 Standard	○	○	○	○	○	○*1
Windows Server 2008 Enterprise	○	○	○	○	○	○*1
Windows Server 2008 Datacenter	×	×	○	○	○*1	○*1
Windows Small Business Server 2008 Standard	×	×	×	×	×	×
Windows Small Business Server 2008 Premium	×	×	×	×	×	×
Windows Web Server 2008 R2	○	○	○	○	○	×
Windows Server 2008 R2 Foundation	×	×	×	×	×	×
Windows Server 2008 R2 Standard	○	○	○	○	○	○
Windows Server 2008 R2 Enterprise	○	○	○	○	○	○
Windows Server 2008 R2 Datacenter	○	○	○	○	○	○
Windows Server® 2008 R2 HPC Edition	×	×	×	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T)	×	○	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T)	×	○	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86)	×	○	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86)	×	○	×	×	×	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	○	○	○	○	○	×
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	○	○	○	○	○	○

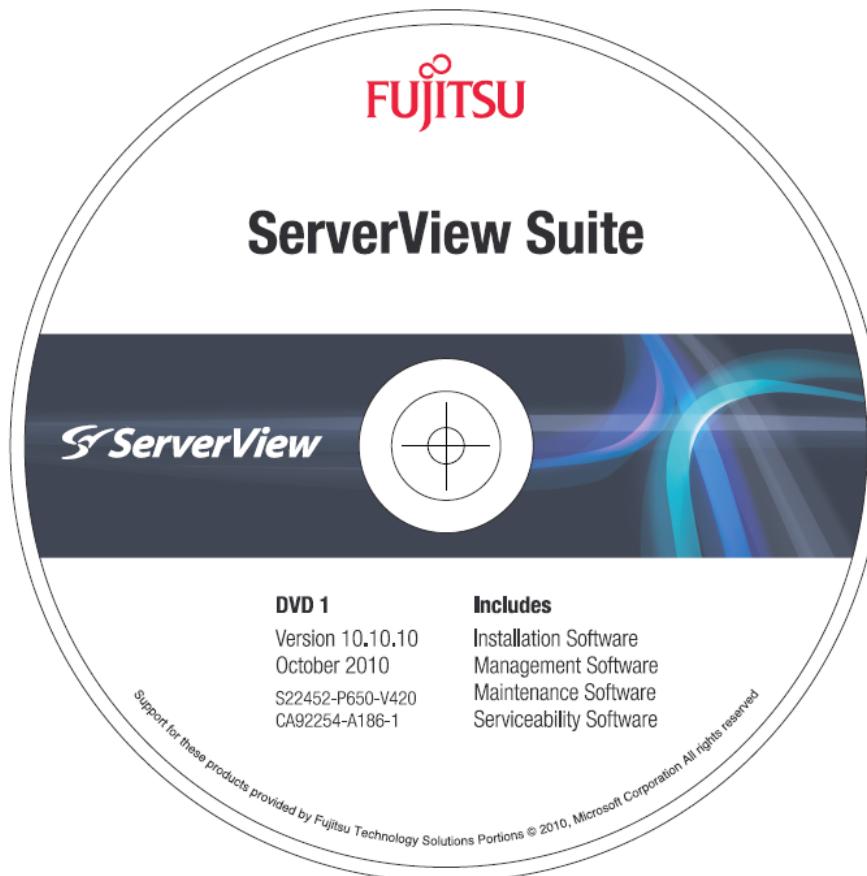
*1: 64bit のみ

2. 格納ソフトウェア

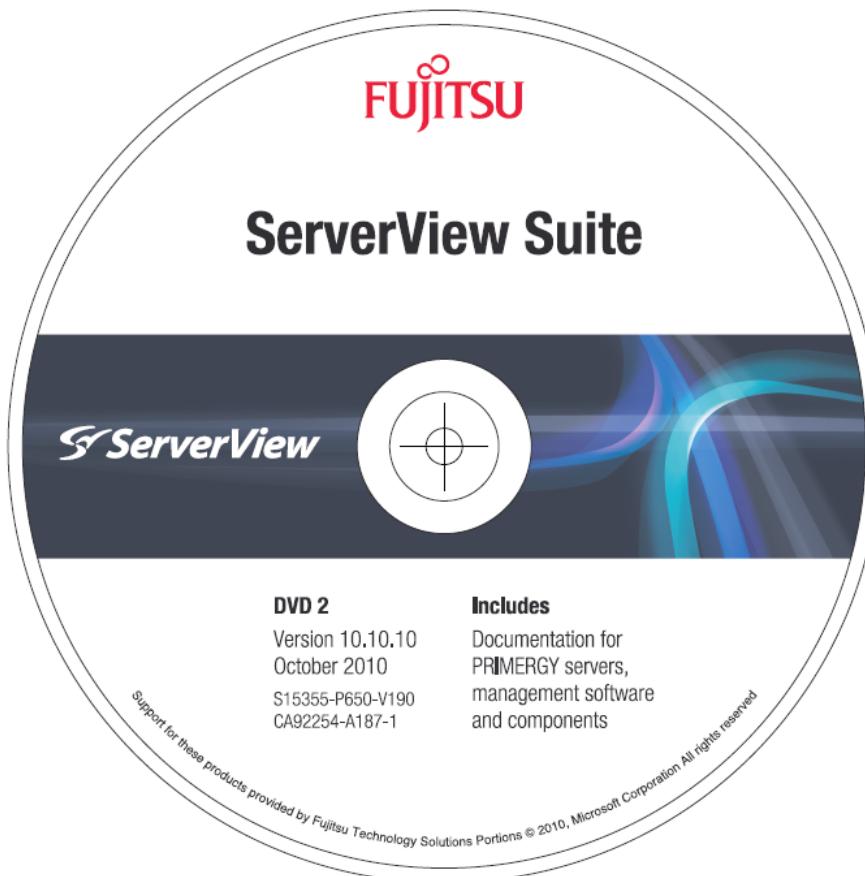
	Windows	Linux
ServerView Agents	V5.00.07	V5.00.12
ServerView Update Agent	V5.00.08	V5.00.08
ServerView Operations Manager/Update Manager	V5.00.09	V5.00.09
ServerView RAID Manager	V5.0.2	V5.0.2
DSNAP	V3.0L50	—
ソフトウェアサポートガイド	V2.0L50	—
RAS 支援サービス (VMware 用)	—	V3.1.2-03
HRM / server	6.0.0	6.0.0
富士通 Linux サポートパッケージ	—	1.1-0
ServerView Installation Manager	V10.10.10	V10.10.10
ServerView Deployment Manager	V5.40	—
ServerView Virtual-IO Manager	V2.3.04	—
REMCS エージェント (ブレードサーバ用)	V3.2L12E	V3.2L12E

3. 媒体

DVD1:添付ソフトウェア/ドライバ



DVD2:マニュアル



4. 留意事項

- ServerView Operations Manager の留意事項
- ServerView Agents の留意事項
- ServerView Installation Manager(SVIM)の留意事項
- Update Manager Express の留意事項
- ServerView Deployment Manager (SVDM) の留意事項
- ServerView Virtual-IO Manager(VIOM)の留意事項
- リモートマネジメントコントローラ(iRMC)の留意事項
- ServerView RAID Manager の留意事項
- PrimeCollect の留意事項
- REMCS エージェントの留意事項
- ServerBooks の留意事項

■ServerView Operations Manager の留意事項

(1) V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Agents がインストールされている環境に本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager をインストールすることはできません。ServerView Operations Manager をインストールする場合は、事前に ServerView Agents を V4.91(推奨: V5.00) 以降にアップデートしてください。

(2) SQL Server の最大メモリ使用量

ServerView Operations Manager for Windows に同梱されている SQL Server の最大メモリ使用量のパラメータ(max server memory)は 2147483647MB に設定されています。この設定値を変更する場合は以下の手順で変更してください。

1. SVS DVD の以下のフォルダに格納されているバッチファイルを、任意のフォルダへコピーします。

〈DVD ドライブ〉¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools¥SQLMaxMemSize
バッチファイル名: SVConfigSQLMaxMemSize.bat

2. コマンドプロンプトを起動します。
3. 1でバッチファイルを保存したフォルダに移動します。
4. 次のコマンドを実行します。

SVConfigSQLMaxMemSize.bat [/SVSETUP]
※/SVSETUP を指定した場合、サイズは 64MB に設定されます。
何も指定しない場合、対話モードとなり、任意に値を指定できます。

(3) BIOS セルフテストのステータス

BIOS セルフテストのステータスが「異常」になった場合に、ServerView Operations Manager から「承認」行為を行う(ステータスを「正常」に戻す)ことができません。

BIOS セルフテストのステータスが「異常」になった場合、ステータスを「正常」に戻すには、該当サーバの OS にログインして、以下の操作を行ってください。

Windows の場合:

1. 管理者権限を有するユーザで OS にログインします。
2. コマンドプロンプトを起動します。
3. 以下のフォルダに移動します。
"C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥Agents¥Configuration Tools"
4. 以下のコマンドを実行します。
SCConfig -clear posterr

Linux の場合:

1. root 権限を有するユーザで OS にログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。
/usr/sbin/eecdcp -c oc=1041 oe=a0 oi=0 00

(4) アップデートインストール

ServerView Operations Manager V5.00 は、V4.92.14 からのみ、アップデートインストールを行うことができます。

それ以前のバージョンからアップデートを行う場合は、設定情報を控えて一旦アンインストールした後に V5.00 をインストールし、再度手動で設定を行うか、もしくは一旦 V4.92.14 にアップデートしてから、V5.00 へのアップデートインストールを行ってください。

(5) クライアント OS へのインストール

ServerView Operations Manager V5.00 は、Windows XP や Windows Vista などのクライアント OS にインストールすることはできません。

(6) ServerView Operations Manager が使用する Web サーバ

ServerView Operations Manager V5.00 をインストールすると、「ServerView JBoss Application Server」という名前のサービスがインストールされます。

Windows 環境の場合、これまでのバージョンの ServerView Operations Manager / Console では、Apache ベースの Web サーバがインストールされていましたが、それに代わって V5.00 では ServerView JBoss Application Server サービスが Web サービスを提供します。

これまでのバージョンの ServerView Operations Manager / Console では、インストールする環境で既に Apache やインターネットインフォメーションサービス(IIS)が動作していた場合に、ServerView Operations Manager / Console に同梱している Apache ベースの Web サーバをインストールせずに既存の Apache や IIS を利用することができましたが、V5.00 ではそれらを利用することはできません。尚、ServerView JBoss Application Server と ServerView Operations Manager V5.00 は、Apache や IIS が動作している環境にもインストール(共存)して動作することができます。

Linux 環境の場合、これまでのバージョンの ServerView Operations Manager では、OS 標準の http サービス(Apache)を利用して ServerView Operations Manager が動作していましたが、V5.00 では、Windows と同様に ServerView JBoss Application Server サービスが Web サービスを提供します。尚、ServerView JBoss Application Server と ServerView Operations Manager V5.00 は、http サービス(Apache)が動作している環境にもインストール(共存)して動作することができます。

(7) ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービス

ServerView Operations Manager V5.00 ではログインユーザ認証の為に、ディレクトリサービスを使用します。ServerView Operations Manager をインストールするサーバに既存のディレクトリサービスがなかった場合には、「ServerView JBoss Application Server」サービス(ServerView Operations Manager と一緒にインストールされる)内のディレクトリサービス機能が有効になります。

ServerView Operations Manager をインストールするサーバからネットワークで接続可能なサーバに、Active Directory が存在していた場合、既存の Active Directory を使用するように設定することができます。

ServerView Operations Manager をインストールするサーバに、Active Directory がインストールされていた場合、「ServerView JBoss Application Server」サービス内のディレクトリサービス機能は使用せずに、既存の Active Directory を使用するように設定する必要があります。この設定は、ServerView Operations Manager のインストール時に行います。

また、ServerView Operations Manager をインストールした後に、Active Directory をインストールすることは推奨されません。ServerView Operations Manager をインストールするサーバに、Active Directory をインストールする場合には、先に Active Directory をインストールした後に、ServerView Operations Manager をインストールしてください。

(8) メモリ使用量

ServerView Operations Manager V5.00 は、デフォルトインストール後の状態で、約 900MB のメモリを使用します。これまでのバージョンでの使用量に対して、300MB 程度使用量が増えています。

ServerView Operations Manager V5.00 をインストールするサーバのハードウェア構成について、推奨値は以下の通りです：

- ・推奨値

- PRIMERGY サーバ

- プロセッサ: 2CPU もしくは 2 コア以上

- メモリ: 4GB 以上

- 空きディスク容量: 100 GB 以上

- ディスプレイ: 1280x1024

- LAN: 100MBit-LAN

(9) Microsoft Internet Explorer のサポートバージョン

Microsoft Internet Explorer のバージョン 6 を使って、ServerView Operations Manager V5.00 にアクセスすることはできません(非サポート)。Microsoft Internet Explorer を使って、ServerView Operations Manager V5.00 にアクセスする場合には、バージョン 7 及び 8 をお使いください。

(10) ホスト名の制限

ホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)に、アンダースコア("_")が含まれているサーバに、ServerView Operations Manager V5.00 をインストールすることはできません。ホスト名にアンダースコアが含まれていない別のサーバに

インストールするか、もしくはホスト名を変更してください。

(11) 名前解決の設定

ServerView Operations Manager V5.00 にブラウザからアクセスする際に、ServerView Operations Manager V5.00 がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくは端末側の hosts ファイルにサーバのホスト名とIPアドレスを追加するなどして、ホスト名を名前解決できるように設定してください。

ServerView Operations Manager をインストールしたサーバにおいても、ServerView Operations Manager にブラウザでアクセスする場合には、自分自身のホスト名が名前解決できるように設定されている必要があります。

(12) JRE をアップデートする際の留意

Windows 環境において ServerView Operations Manager V5.00 がインストールされた状態で、JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager V5.00 の以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください:

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Services
3. ServerView Download Service

上記の操作を行わないと、JRE のアップデートに失敗します。上記の操作を行わずに、JRE のアップデートに失敗した後に、再度アップデートを実行するには、システムの再起動が必要です。

(13) JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。

ServerView Operations Manager V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、V5.00 ではチェックを入れてください。

この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

- (1) コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
- (2) 「詳細」タブを選択します。
- (3) 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。
- (4) 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

(14) 他プログラムとの連携ツール

本DVD 内の下記のフォルダに、Systemwalker や信号灯と連携するツールなどが格納されています。必要に応じて適宜ご活用ください。各ツールの詳細は、ツールごとのフォルダに格納されている Readme.txt をご覧ください。

格納フォルダ:

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools

ツール(カッコ内は格納フォルダ名):

- Systemwalker 連携用ファイル (SystemWalker)
- 信号灯制御プログラム連携ツール (PHN.3FB)
- ServerView トラブル転送プログラム for Linux (TrapServer)
- firewall 設定ツール for VMware (VMware)
- SQL Server 最大メモリ使用量設定ツール (SQLMaxMemSize)

(15) IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合の操作

ServerView Operations Manager V5.00 をインストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。修正インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。

尚、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の OpenDS(デフォルト)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「OpenDS をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。

Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します：

```
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh
```

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

■ServerView Agents の留意事項

Windows 環境

(1) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に 本DVD に格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨:V5.00)にアップデートしてください。

(2) ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)およびオンライン診断を実行する際の留意

ServerView V5.00 では役割ベースのアクセス制御サポートにより、セキュリティの強化が行なわれました。

このため、ServerView Agents V5.00 がインストールされたサーバに対して、V4.92 以前の ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)およびオンライン診断を実行することができません。これらの機能をお使いになる場合は、ServerView Operations Manager V5.00 をご使用ください。

ServerView Operations Manager V4.92 以前をご使用の場合でも、該当サーバの OS 上からは診断情報収集(PrimeCollect)を実行する事ができます。

(3) Hyper-V がインストールされている環境での留意

Hyper-V がインストールされた環境に本モジュールをインストールした場合、VME Agent(ServerView Virtualization Management Agent)サービスの起動時に以下のエラーがイベントログに記録される場合があります。

ソース: ServerView Virtualization Management Agent

種類: Error

説明: HyperV: InitCOMSecurity() failed to initialize security.

以下を実施することで、本ログの記録を抑止することができます。

- C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\Agents\VMEA\etc\app.config.xml を編集し、以下の行をコメントアウト("<!--" と "-->"で囲む)します。
<plugin name="hyper-v" moduleName="libvmehyperv" load="1" primary="1" virtual="1"/>
- 「スタート」メニュー - すべてのプログラム - Fujitsu - ServerView Suite - Agents - Diagnostic Tools から ServerView Agents の再起動を実施します。

本ログが記録された場合または本対処を実施した場合には、Hyper-V 上の仮想マシンのパフォーマンスおよびしきい値監視が行なえなくなります。

本件は ServerView Agents for Windows V5.01.04 以降では発生しません。Hyper-V 上の仮想マシンのパフォーマンスおよびしきい値監視を行なう場合は、V5.01.04 を適用してください。

ServerView Agents for Windows V5.01.04 は以下のダウンロード検索からダウンロードすることができます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

Linux 環境

(1) V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境へのインストール

V4.81 以前の ServerView Operations Manager がインストールされている環境に 本DVDに格納されている ServerView Agents をインストールすることはできません。ServerView Agents をインストールする場合は、事前に ServerView Operations Manager を V4.91 以降(推奨:V5.00)にアップデートしてください。

(2) インストールスクリプトによる snmpd.conf の自動編集

日本語 OS 環境において、インストールスクリプト(srvmagtDVD.sh、srvmagt.sh)を使用して初めてインストールする時、インストールスクリプトが自動的に snmpd.conf を編集し、/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルを作成します。/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルが存在していると、次回以降は自動的に snmpd.conf は編集されません。初回インストール時、snmpd.conf を自動的に編集する必要がない場合は、予め以下のコマンドにより、/etc/snmp/snmpd.conf_svsave ファイルを作成しておいてください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf_svsave
```

(3) IPMI ドライバの設定について

ServerView Agents はデフォルト設定では、OS 標準の IPMI ドライバを使用しますが、RHEL 5において PRIMECLUSTER を使用する場合は、ServerView Agents 同梱の IPMI ドライバを使用する必要があります。必ず以下の設定を行ってください。

また、PRIMECLUSTER を使用しない場合も、RHEL 5においては、OS 標準の IPMI ドライバを使用していると、不定期に短時間の間 CPU 使用率が上昇する事象が発生します。ServerView Agents 同梱の IPMI ドライバを使用するように設定することで、本事象を抑止することができます。

1. ServerView Agents V5.00 をインストール後、ServerView Agents を停止する。

```
# srvmagt stop
```

2. OS 標準 IPMI ドライバを停止する。

```
# /etc/init.d/ipmi stop
```

3. OS 標準 IPMI ドライバの起動設定を無効にする。

```
# /sbin/chkconfig ipmi off
```

4. /etc/srvmagt/config を以下のとおり編集する。

 <編集前>

```
  LoadNativeIPMI=1
```

 <編集後>

```
  LoadNativeIPMI=0
```

5. ServerView Agents を起動する。

```
# srvmagt start
```

(4) VMware の firewall 設定

VMware ESXにおいて、ServerView Agents を使用する場合、VMware ESX の firewall の設定を行なう必要があります。

SVS DVD の以下のフォルダに格納されている、「vmcfg.txt」を参照して設定を行なってください。

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools¥VMware

(5) ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)を実行する際の留意

ServerView V5.00 では役割ベースのアクセス制御サポートにより、セキュリティの強化が行なわれました。このため、ServerView Agents V5.00 がインストールされたサーバに対して、V4.92 以前の ServerView Operations Manager から診断情報収集(PrimeCollect)を実行することができません。これらの機能をお使いになる場合は、ServerView Operations Manager V5.00 をご使用ください。ServerView Operations Manager V4.92 以前をご使用の場合でも、該当サーバの OS 上からは診断情報収集(PrimeCollect)を実行する事ができます。

■ServerView Installation Manager(SVIM)の留意事項

(1) SVIM を使用した Windows Server 2008 Service Pack 適用済み環境の構築について

SVIM を使用して、Windows Server 2008 Service Pack のインストールを行うことはできません。

Windows Server 2008 Service Pack 未適用の OS メディアをご使用の場合、

SVIM での Windows Server 2008 インストール完了後、手動で Service Pack をインストールしてください。

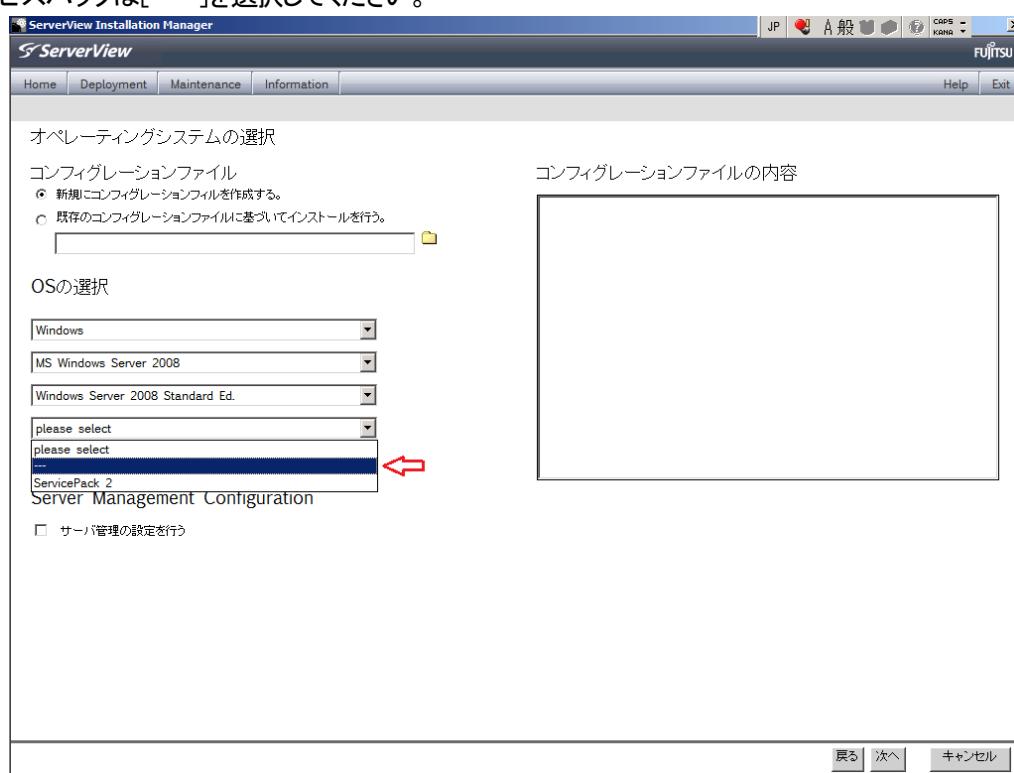
Windows Server 2008 Service Pack 適用済みの OS メディアをご使用の場合は、

SVIM で Windows Server 2008 インストールを行うことにより、

Windows Server 2008 Service Pack 適用済み環境を構築することができます。

(2) サービスパックなしの Windows OS メディアを使用してインストールする場合、サービスパックは[---]を選択してください。

サービスパックなしの Windows OS メディア(RTM 版、サーバ添付のインストールディスク)を使用してインストールする場合、サービスパックは[---]を選択してください。



(3) プロダクトキーの再入力画面が表示された場合、再度プロダクトキーを入力してください

Microsoft メディアを使用する場合、OS インストール中にプロダクトキーの再入力を求められる場合があります。

入力画面が表示された場合、再度プロダクトキーを入力してください。

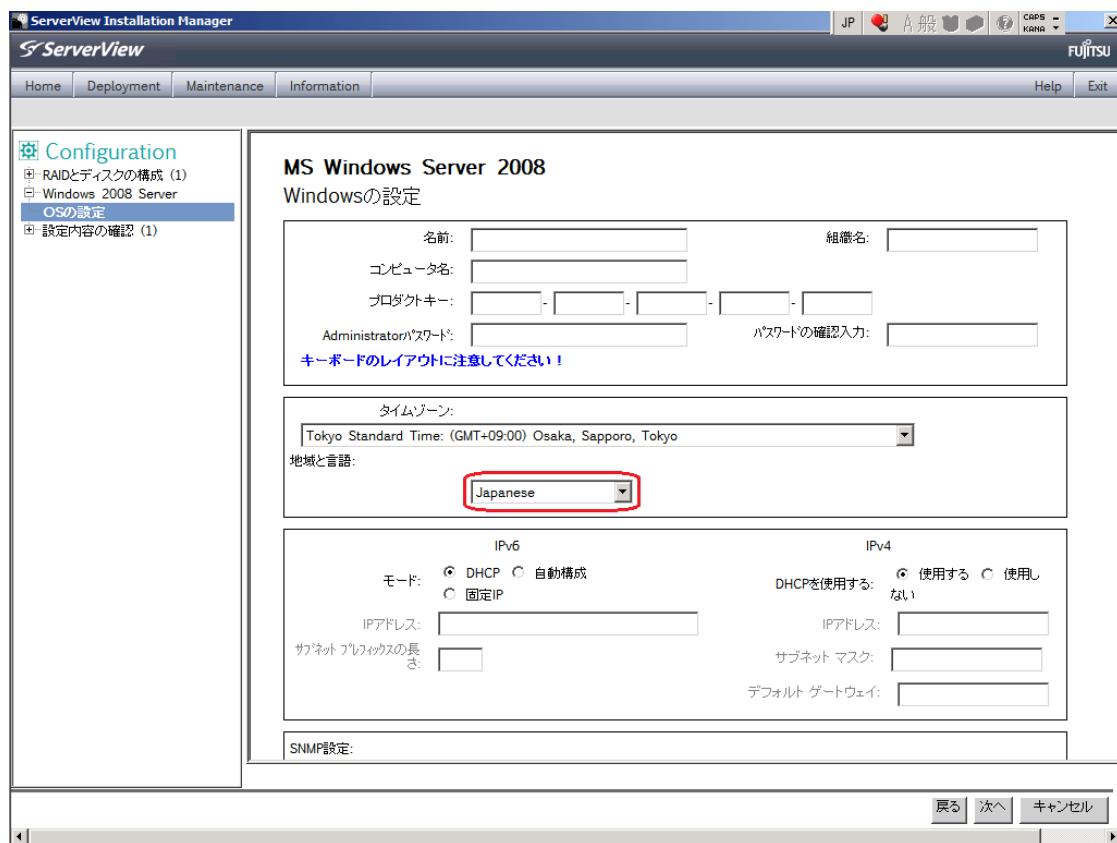
(4) 「Operating System – Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用したインストールについて

「Operating System – Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用してインストールを行う場合、下記項目を選択しインストールを行ってください。

この設定を行わなかった場合、SVIM でインストール完了後、一部のアプリケーションで文字化けが発生する可能性があります。

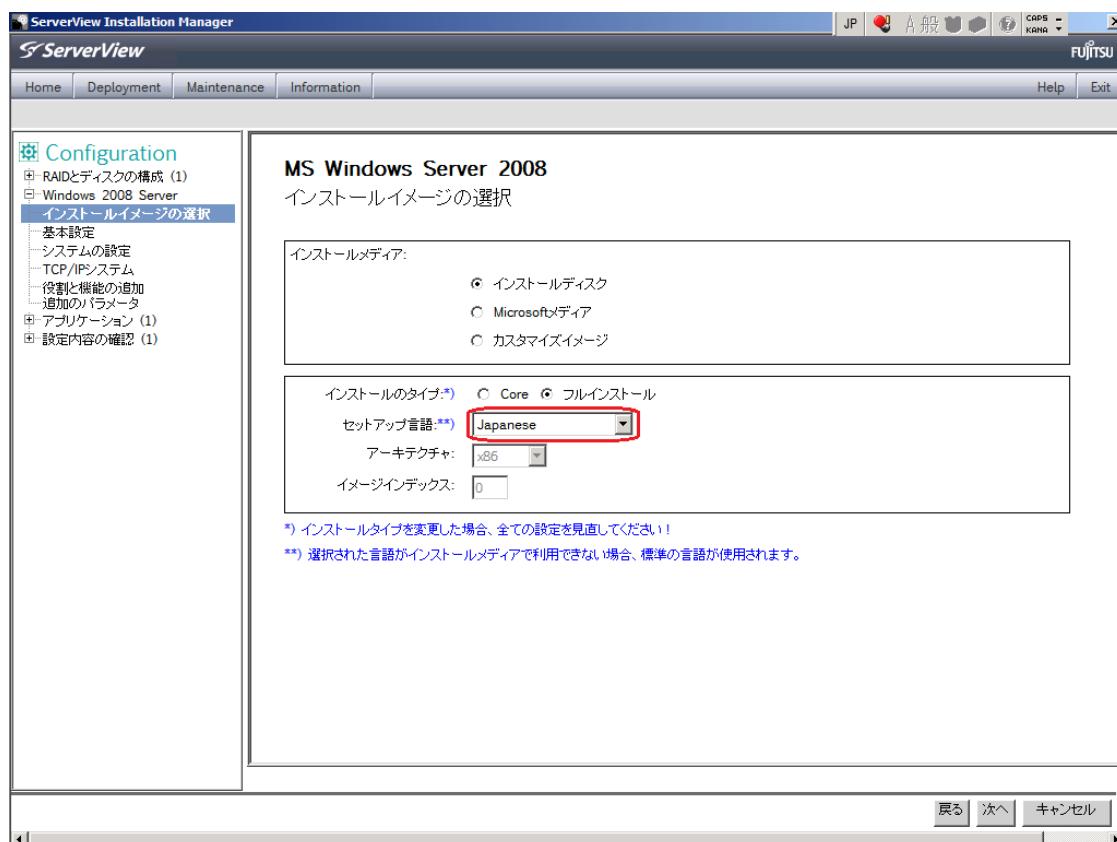
クリックモード:

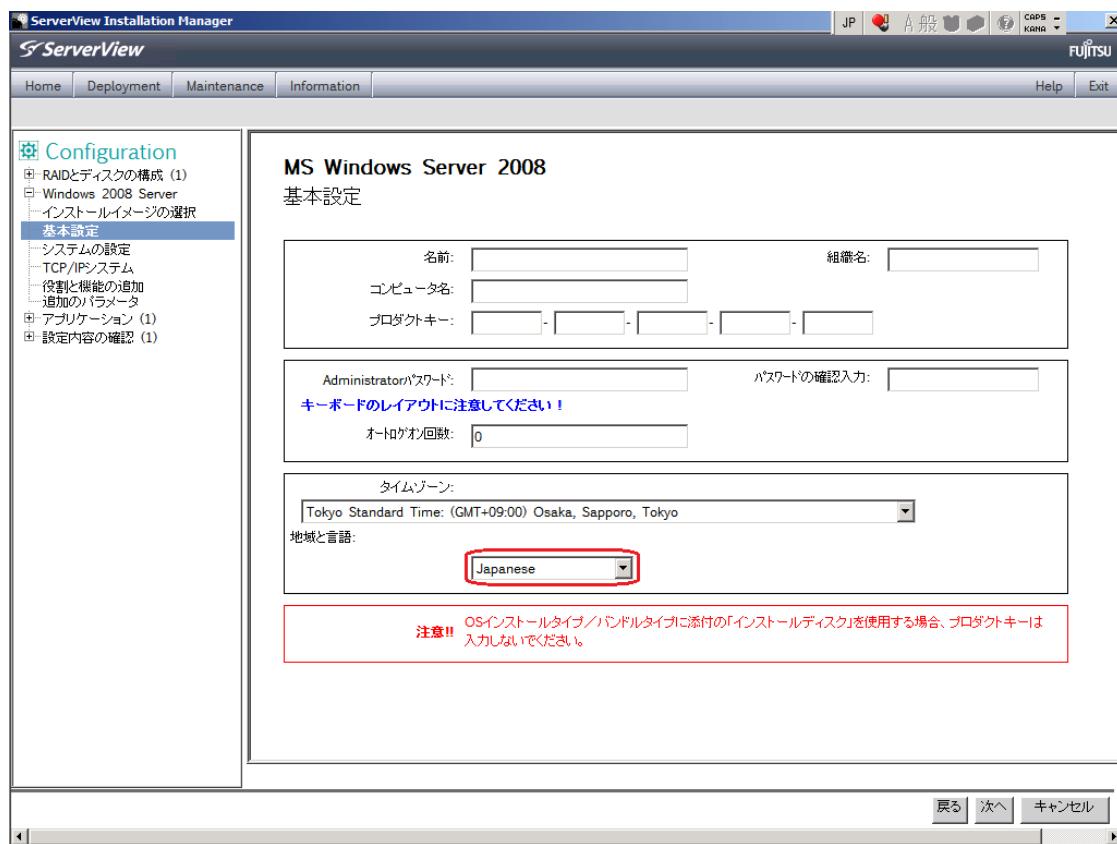
- 「OS の設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。



ガイドモード:

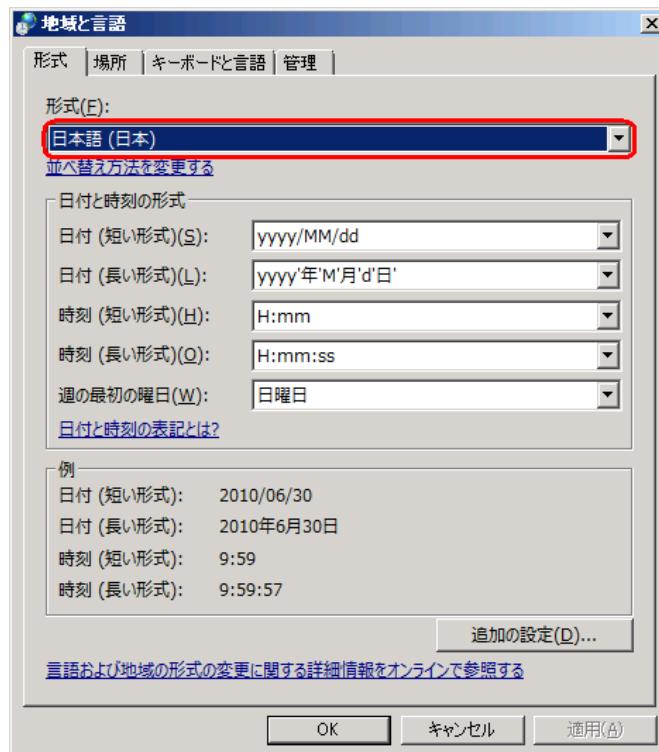
- 「インストールイメージの選択」画面の「セットアップ言語」、および、「基本設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。





インストール完了後、文字化けが発生した場合には、下記手順を行い問題を解消することができます。

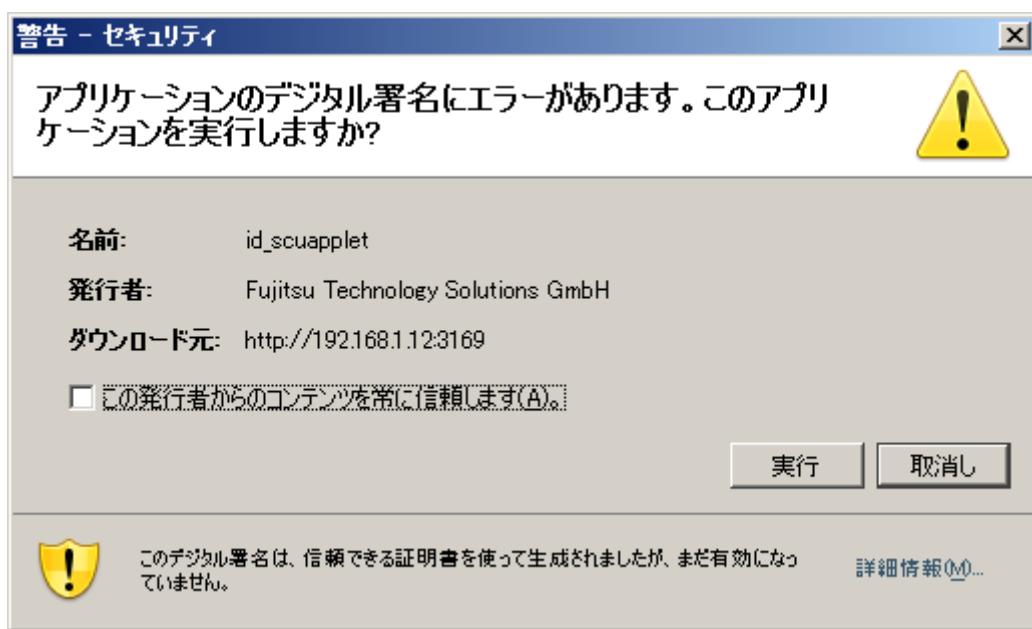
1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「コントロールパネル」に表示されている「時計、言語、および地域」の「表示言語の変更」をクリックします。
3. 「地域と言語」ウィンドウの「形式」タブをクリックします。
4. 「形式」を選択し、一度日本語以外の言語を選択した後、「日本語(日本)」に再設定します。



(5) Server Configuration Manager 起動時の警告メッセージについて

リモートインストールにおいて、Server Configuration Manager を起動し設定をおこなう場合は、下記のようなデジタル署名に関する警告メッセージが表示される場合があります。

警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します。」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。



(6) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアはマルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。

マルチパス構成が設定済みの環境では、本ソフトウェアは使用しないでください。

本ソフトウェアの起動に使用しているWindows PEは、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された2つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内のID情報を更新してしまいます。

その結果、マルチパス構成が崩れるため、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。

マルチパス接続環境で本ソフトウェアを起動して、システムのインストールを行うと、正常にインストールできないため、事前にマルチパス接続しているケーブルを全て外してください。

外部ストレージ(SAS/FC)に、OSのインストールを行う場合は、マルチパス接続構成のいずれか一つのパスのみを接続した状態にし、それ以外のケーブルは抜いてインストールしてください。

OSインストール完了後、マルチパス構成に戻すには、マルチパスドライブがインストールされた状態にした後、サーバの電源を切った状態で、ケーブルを接続しマルチパス構成に戻してください。

マルチパス接続しているケーブルに関する詳細な手順につきましては、FCカード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

(7) 英語環境のセットアップについて

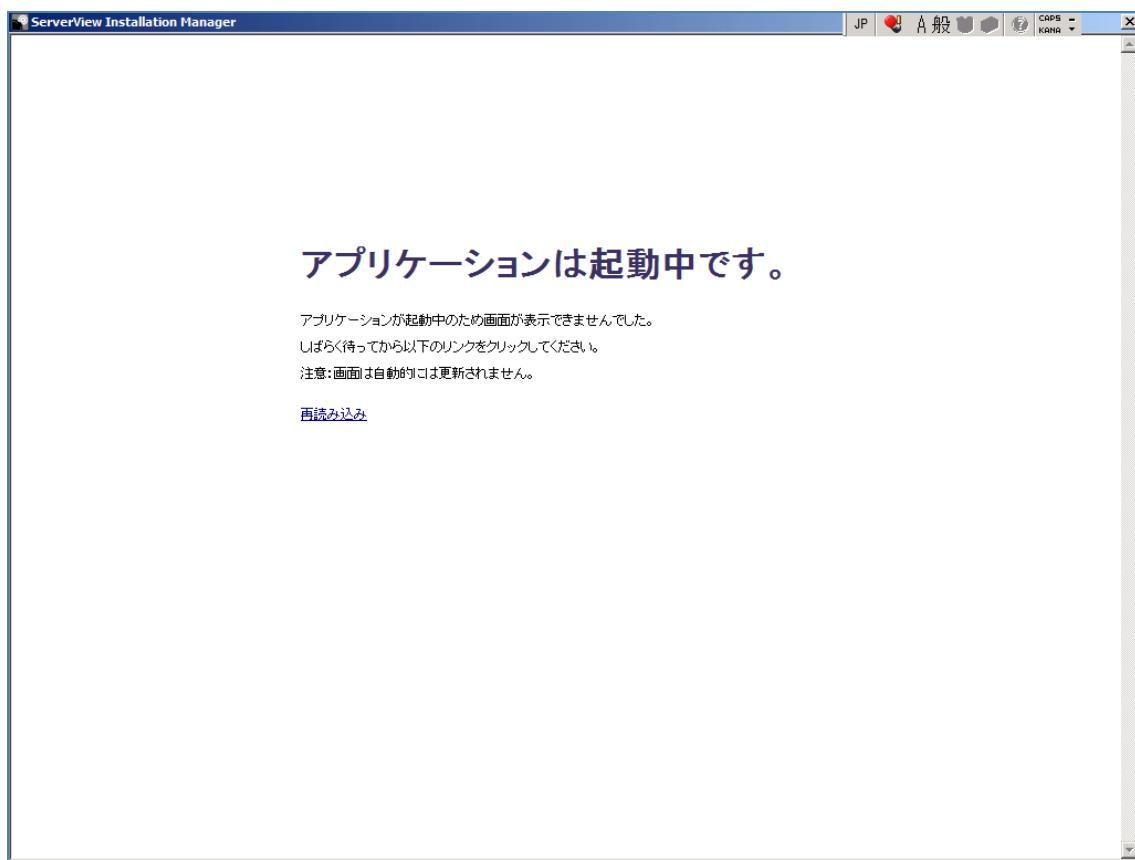
SVIM を使用して、日本語以外の言語についてのインストールはサポートしていません。

英語環境が必要な場合には、弊社営業もしくは SE にご相談ください。

(8) ServerView Installation Manager 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に下記メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



(9) Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) ではパッケージ選択において、「すべてインストール」を選択しないでください

Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) のパッケージ選択画面において、「すべてインストール」を選択してのインストールはサポートしていません。「最小インストール」もしくは「デフォルトインストール」をクリックし処理を続行してください。

(10) Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境の構築における留意事項

SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 5.5 環境を構築する場合、OS インストール後に以下のページからダウンロードした OS 修正パッケージを適用することを強く推奨します。

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2010-0759.html>

OS 修正パッケージのダウンロード・適用方法については、お客様のサポート契約形態に合わせて以下のドキュメントを参照ください。

[SupportDesk 契約済みの場合]

SupportDesk 契約者様向けドキュメント「Linux ユーザズマニュアル」をご覧ください。

[SupportDesk 未契約の場合]

Red Hat 社のドキュメントをご覧ください。

(11) ネットワーク共有パスに半角スペースを入力することができません

SVIM を使用して Windows Server 2003 R2 をインストール時に、アプリケーションウィザードにおいて「MS Windows Server 2003 Service Pack 2」のインストールソースをネットワーク共有とした場合、ネットワーク共有パスに半角スペースを入力することができません。

半角スペースが含まれない共有フォルダにインストールソースを格納して下さい。

(12) ServerView Operations Manager は、「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます

V10.10.10 以降の SVIM では、ServerView Operations Manager は、アプリケーションウィザードの「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます。
「Software Packages for JAPAN」パッケージグループ配下には表示されません。
これは、V10.10.10 以降の ServerView Suite に含まれる ServerView Operations Manager が、
各国語共通版となり、「ServerView Suite」パッケージグループ配下のメニューに統合されたためです。

(13) SVIM を使用して WindowsOS をインストールする場合、ボリュームラベル名を入力してください

ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(14) RAS 支援サービスにおける留意事項

ServerView Suite V10.10.10 以降、RAS 支援サービスはインストールされなくなりました。
寿命監視方法につきましては、「ServerView Suite DVD2」に設定手順を記載したマニュアルを格納しております。
ServerBooks の初期ページのメニューから下記の様に選択してください。
「Software」-「Life Time Management」-「定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知」

■ Update Manager Express の留意事項

(1) サポート機種

Update Manager Express は、以下のモデルをサポートしております。

- TX100 S2 / TX150 S7 / TX200 S6 / TX300 S6
- RX100 S6 / RX200 S6 / RX300 S6 / RX600 S5
- BX922 S2 / BX920 S2 / BX960 S1 / BX924 S2 / BX620 S6

(2) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアを ServerView Suite DVD 起動した環境で使用する場合、マルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。マルチパス構成が設定済みの環境では、ServerView Suite DVD 起動を行わないでください。
ServerView Suite DVD 起動に使用している Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された 2 つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新します。
その結果、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。
マルチパス接続環境で ServerView Suite DVD 起動を行う場合は、事前にFCパスを切断してください。FCパス切断の詳細な手順につきましては、FCカード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。
ServerView Suite DVD 起動した環境ではなく、Windows / Linux システム上で本ソフトウェアを実行する場合には、マルチパス構成が設定済みの場合でも動作することが可能です。

■ ServerView Deployment Manager (SVDM) の留意事項

(1) 制限機能

「デプロイメント構成」の以下の機能は、ご使用になれません。

①[基本設定] 画面

- DNS サフィックス（※ リモートインストールのみご使用になれません（製品仕様）。クローニングでは機能します。）

②[LAN ポート] 画面

- この接続の DNS サフィックス
- この接続の DNS サフィックスを DNS 登録に使う

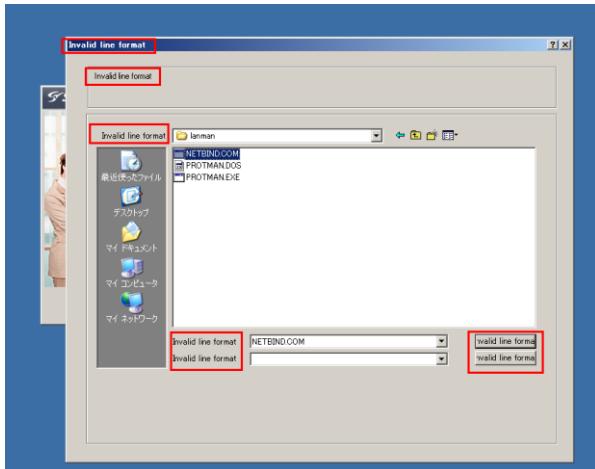
③[DNS 検索サフィックス] 画面

- DNS 検索サフィックス

(2) LAN マネージャー インストール時の異常

Deployment Manager のインストールパッケージを CD/DVD メディアに書き込み、そのメディアをサーバの DVD-ROM ドライブへセットしてからインストールすると、インストール途中の DVD 入れ替え作業を適切に行わなかった場合に、Deployment Manager のインストール最後の LAN マネージャのインストール段階で、画面上のメッセージが「Invalid Line Format」と表示される、またはインストーラが異常終了することがあります。なお、ServerView Suite DVD から Deployment Manager をインストールした場合は、DVD メディアの入れ替え作業が発生しませんので、本現象は発生しません。

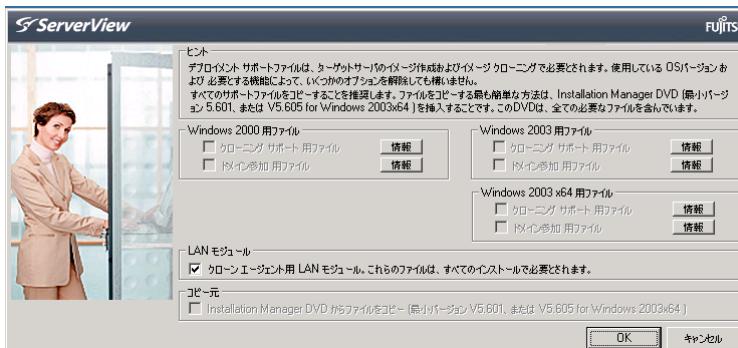
[Windows 2003]



(画面①)

[Windows 2008]

以下の画面で[OK]をクリックした後に、インストーラが突然終了します。また Windows イベントログに、下記エラーが記録されます。



(画面②)

ログの名前: Application

ソース: Application Error

イベント ID: 1005

レベル: エラー

説明:

次のいずれかの理由によりファイル [ファイル名] にアクセスできません: ネットワーク接続、このファイルの保存先ディスク、またはこのコンピューターにインストールされている記憶域 ドライバーに問題があります。または、ディスクが見つかりません。このエラーによりプログラム RDSsetup.exe は終了しました。

プログラム: RDSsetup.exe

【原因】

DVD メディアが入れ替えられたことで、インストーラが参照しようとしたリソースファイルが存在しない状態になったため。

【発生条件】

- Deployment Manager 5.4.0

【回避方法】

- ① Deployment Manager をインストールする際は、ServerView Suite DVD1 から直接インストールするか、またはインストール

パッケージを HDD 上にコピーしてから行うことを推奨します。

- ② Deployment Manager インストールパッケージを書き込んだ CD/DVD メディアからインストールする場合は、画面②で[OK] ボタンをクリックして LAN マネージャのインストールを開始する前に、Deployment Manager インストールパッケージが格納されていた元の CD/DVD メディアへ戻してください。

【現象発生後の対処】

RDSetup.exe を再度実行し、「デプロイメントサポートファイルのコピー」を行うことで、LAN マネージャのインストールを再度行うか、手動で LAN マネージャをインストールしてください。

(3) その他留意事項について

ServerView Deployment Manager の Readme.htm に、本資料に記載されていない制限、留意事項が記載されておりますので、ご使用になる前にそちらもご確認ください。

(4) ライセンスおよび製品サポートについて

Deployment Manager をご使用になるにはライセンス購入が必要です。リモート OS セットアップ、クローンセットアップを行いたいターゲットサーバ数(クライアント数)のライセンスを用意してください。デプロイメントサーバ自身には、ライセンス購入は必要ありません。

- ・ ライセンスは有償です。1 ターゲットサーバ毎に 1 ライセンスが必要です。
- ・ ServerView Deployment Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。

(5) トラブル時のログ収集

サポート契約されたお客様で、製品をご使用中のトラブルについて調査を依頼される場合、製品に標準添付されているログ収集ツールでログを採取した上でお問い合わせをお願いします。なお、ログ収集ツールは、ご使用になっているバージョンのインストールパッケージに格納されている版数を使用してください。

- ・ (製品インストールパッケージのルートフォルダ)¥diag¥GetRdDiag.vbs 、または
- ・ (Deployment Manager インストール先)¥diag¥GetRdDiag.vbs (※V5.40 以降のみ)

(6) ご使用になれない環境

SystemcastWizard Professional、ServerView Resource Coordinator VE をご使用になられている環境では、本ソフトウェアはご使用になれません。

(7) サポート機種

ServerView Deployment Manager V5.40 は、以下のモデルをサポートしております。(2010 年 10 月時点)

- TX100 S2 / TX150 S7 / TX200 S6 / TX300S6
- RX100 S6 / RX200S6 / RX300S6 / RX600S5
- BX922 S2 / BX920 S2 / BX960 S1 / BX924 S2 / BX620 S6

(8) サポート OS

ServerView Deployment Manager V5.40 のサポート OS は、製品マニュアルを参照してください。

なお「クローニング」、「クラッシュリカバリ」は、Red Hat Enterprise Linux 5.5 までサポートしております。

(9) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアは、マルチパス構成が設定済みの環境に対するバックアップ、リストアなどの一切の動作をサポートしておりません。マルチパス構成が設定済みの構成に対するクローニング、リモートインストール、クラッシュリカバリは行わないでください。

本ソフトウェアがターゲットサーバの起動に使用する Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された 2 つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新します。

その結果、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。

マルチパス接続環境に対してバックアップ、リストアなどの本ソフトウェアの機能を使用する場合、事前にFCパスを切断してください。FCパス切断の詳細な手順につきましては、FCカード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

■ServerView Virtual-IO Manager(VIOM)の留意事項

(1) ライセンスおよび製品サポートについて

ServerView Virtual-IO Managerをご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のブレードシステムのシャーシ数のライセンスを用意してください。

- ・ライセンスは有償です。1ターゲットシャーシ毎に1ライセンスが必要です。
- ・Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、Support Desk契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。

(2) 64ビットJavaについて

Virtual-IO Manager は 64 ビット Java では動作しません。32 ビット Java をインストールの上、32 ビット Internet Explorer をご使用ください。

(3) インストール時の MAC アドレスおよび WWN の範囲選択画面について

- ・独自の MAC アドレスや WWN を指定するためにアドレス範囲を入力した場合、入力したアドレス文字列について妥当性の確認は行いません。正しいアドレスを入力したことをよくご確認の上、次の画面に進んでください。

(4) Virtual-IO Manager 画面について

- ・Virtual-IO Manager をインストールした後、Virtual-IO Manager の画面を起動する前に、必ず Java のキヤツシユーティ(一時ファイル)を消去してください。コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施できます。
- ・ヘルプボタンをクリックしたとき、ヘルプウィンドウは Virtual-IO Manager ウィンドウの後ろに表示されます。タスクバーでヘルプウィンドウをクリックして参照してください。
- ・サーバプロファイルのエクスポート操作時の保存画面において、新規作成したフォルダのリネーム操作ができない場合があります。保存操作を行った後に、別途フォルダのリネーム操作を行ってください。
- ・構成のバックアップ / リストアにおいて、日本語文字列を含む構成をバックアップ / リストアする場合は、「管理サーバに保存する」、「管理サーバ上のファイルから復元する」を使用してください。「ローカルに保存する」、「ローカルから復元する」は使用しないでください。保存 / 復元時にエラーが発生したり、復元後に文字化けが発生する場合があります。

(5) ServerView Virtual-IO Manager のサポート状況について

Virtual-IO Manager(VIOM)のサポート状況について記載します。

サポート機種	サポートバージョン
BX600 全モデル	未サポート
BX920 S1	VIOM V2.1.04 以降
BX922 S2	VIOM V2.1.04 以降
BX920 S2	VIOM V2.1.04 以降
BX924 S2	VIOM V2.2.05 以降
BX960 S1	未サポート

VIOM のバージョンにより、動作対象のハードウェアや必須とするファームウェアバージョン等が異なります。VIOM 添付のリースノート(ReadMe_ja.htm)、もしくは、Web 公開モジュールの readme ファイルにて必ずご確認ください。

(6) Server View Virtual-IO Manager のアップデートインストールについて

旧バージョンから VIOM V2.3 へのアップデートインストールは、V2.2 からのアップデートのみサポートします。V2.1 を使用している場合は、V2.2 にアップデートした後に、V2.3 にアップデートしてください。

(7) IBP スタッキングについて

IBP スタッキングは未サポートです。

(8) マニュアル、リリースノートについて

- ・日本語版のマニュアルはありません。ServerBooks に英語版の ServerView Virtual-IO Manager V2.3 Users Guide が格納されていますので、そちらをご参照ください。
- ・インストーラが格納されているフォルダに日本語版のリリースノート(ReadMe.ja.htm)が格納されています。
- ・リリースノートの「1.2 納品」に記載されている ServerView Software CD および SV Virtual-IO Manager シングルライセンスの注文番号は海外における注文番号です。日本国内での注文番号につきましては、システム構成図をご参照ください。

■リモートマネジメントコントローラ(iRMC)の留意事項

(1) リモート接続時の警告メッセージについて

iRMC WebUI より リモート接続(※1)を行った場合、下記のようなデジタル署名に関する警告メッセージが表示される場合があります。

警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します。」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。これらの警告メッセージが表示されても動作に問題はありません。

(※1) iRMC WebUI の BIOS テキストコンソールリダイレクション、ビデオリダイレクション、SSH アクセス、Telnet アクセス



(2) ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ使用時のブラウザ設定

iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用する場合は、プロキシ経由で接続することができません。ブラウザの設定で、iRMC WebUI への接続はプロキシを使用しないように設定してください。

■ServerView RAID Manager の留意事項

(1) セキュリティ証明書について

ServerView RAID Manager が使用するセキュリティ証明書の暗号強度が上がったため、画面を表示する側の OS および Web ブラウザについても対応が必要になります。

・WEB ブラウザについて

Internet Explorer 6 をご使用の場合は Internet Explorer 7 以降にアップデートしてください。

・hotfix の適用について

Windows Server 2003 をご使用の場合は hotfix KB968730 を適用してください。

<http://support.microsoft.com/kb/968730/>

■PrimeCollect の留意事項

(1) マルチパス環境における留意事項

本ソフトウェアを ServerView Suite DVD から起動する場合、マルチパス構成が設定済みの環境での動作をサポートしていません。

マルチパス構成が設定済みの環境では、ServerView Suite DVD 起動を行わないでください。

本ソフトウェアの起動に使用している Windows PE は、マルチパス構成が設定されているシステムであることを認識できないため、マルチパス構成が設定された2つのディスクドライブを同時に認識した場合、システムドライブの一意性を確保する為に、マルチパス構成の片方のディスクドライブ内の ID 情報を更新してしまいます。

その結果、マルチパス構成が崩れるため、既にインストールされているシステムが起動しなくなってしまう可能性があります。

マルチパス接続環境で ServerView Suite DVD 起動を行い、本ソフトウェアを実行する場合は、

事前に FC パスを切断してください。FC パス切断の詳細な手順につきましては、

FC カード等のマルチパス環境をサポートしたデバイスの取扱説明書を参照願います。

ServerView Suite DVD から起動するのではなく、ServerView Agents と共にインストールされた本ソフトウェアを OS 上で実行する場合には、マルチパス構成が設定済みの場合でも動作することが可能です。

■REMCS エージェントの留意事項

(1) REMCS エージェントをご使用の場合、最新のバージョンをインストールしてください

ServerView Suite DVD1 に格納されている REMCS エージェントはご使用になれません。

REMCS エージェントをインストールする場合、下記、弊社 Web ページより

最新版をダウンロードし、インストールしてください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/downloads/>

■ServerBooksの留意事項

(1) ServerView Suite (V10.10.10) DVD2 の追加・修正マニュアルが公開されています。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/products/note/svsdvd/>

フォルダ	サブフォルダ	マニュアル名	元言語	追加・修正
Top Page				
ServerView Suite Installation Manuals				
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation ServerView Agents for Linux (インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation ServerView Agents for Linux – PRIMEQUEST 1000 シリーズ(インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation ServerView Agents for Windows (インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation ServerView Agents for Windows – PRIMEQUEST 1000 シリーズ(インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation under Linux (インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager 5.0: Installation under Windows (インストールガイド)	日本語	有り(日本語)
Server Installation and Deployment				
		ServerView Installation Manager: ServerView Installation Manager (取扱説明書)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Installation Manager: ServerView Installation Manager for PRIMEQUEST 1000 シリーズ (取扱説明書)	日本語	有り(日本語)
Administration and Manageability				
	Health Monitoring	ServerView Operations Manager: ServerView Operations Manager 5.0 – Server Management (User Guide)	英語	有り(日本語)
		PRIMEQUEST 1000 Series: ServerView Operations Manager 5.0 – Server Management for PRIMEQUEST 1000 Series (User Guide)	英語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager: ServerView Operations Manager 5.0 – Base Configuration Wizard (User Guide)	英語	有り(日本語)
		ServerView Suite: ServerView System Monitor (User Guide)	英語	有り(日本語)
Asset Management				
		ServerView Operations Manager: ServerView Archive Manager – ServerView Operations Manager 5.0 (User Guide)	英語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager: ServerView Archive Manager – ServerView Operations Manager 5.0 – PRIMEQUEST 1000 Series (User Guide)	英語	有り(日本語)
Event Management				
		ServerView Operations Manager: ServerView Event Manager – ServerView Operations Manager 5.0 (User Guide)	英語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager: ServerView Threshold Manager – ServerView Operations Manager 5.0 (取扱説明書)	日本語	有り(日本語)
Maintenance				
	Update Management			
		ServerView Operations Manager: ServerView Update Management 5.0 (取扱説明書)	日本語	有り(日本語)
		ServerView Operations Manager: ServerView Update Management 5.0 for PRIMEQUEST 1000 Series (取扱説明書)	日本語	有り(日本語)
Optimization and Virtualization				
		ServerView Virtual-IO Manager : ServerView Virtual-IO Manager CLI 2.3 – Command Line Interface (Reference Manual)	英語	有り(日本語)
		ServerView Virtual-IO Manager : ServerView Virtual-IO Manager 2.3 (User Guide)	英語	有り(日本語)
Security and User Management				
		ServerView Suite: ★ServerView でのユーザ管理 – 中央認証および役割ベースの権限(取扱説明書)	日本語	有り(日本語)

■著作権および商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

以上